

平成23年度初期臨床研修医マッチング結果について

平成23年10月27日に、医師臨床研修マッチング協議会から平成23年度マッチング結果が公表されました。

今年度、本県内の臨床研修病院にマッチングした医学生は105人となり、昨年度の114人には及びませんでした。茨城県では、今回マッチングした皆さまがより良い研修を受けられるよう、また、今後、より多くの皆さまに茨城での研修を選択していただけるよう、関係者一丸となり、研修環境の充実に取り組んでまいります。

茨城県医師臨床研修連絡協議会 会長 **山口 高史**
(独立行政法人国立病院機構水戸医療センター統括診療部長)

今年も初期臨床研修医のマッチングが終了いたしました。本年は3月11日に東日本大震災に見舞われ本県も大きな被害を受け、さらに福島第一原発事故により福島の隣県である当県も、風評被害も含めイメージが大きく傷つきました。これらのことから、茨城県で初期臨床研修を希望する医学部卒業生が大幅に減少するのではないかと危惧しておりました。

結果は、茨城県のマッチ数は昨年の114人から9人減の105人にとどまり、平成21年度と同数となりました。関東や震災被害地以外の地域では、大

都市圏より地方が増加した傾向が認められ、この流れを考えればイメージの低下が結果に及ぼした影響は少なからずあると思われませんが、これらの条件下では最良の結果だと考えております。

これも、ひとえに関係者一同の努力のたまものと感謝しております。

震災や原発事故によるイメージ低下が短期間で簡単に払しょくされるものでないことは容易に想像できます。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。



平成23年5月、つくば国際会議場で開催した臨床研修病院合同説明会

研修医マッチングの実績状況

単位：人

	平成23年度						平成22年度					
	募集定員			マッチ者数			募集定員			マッチ者数		
	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院
全国	10,550	4,984	5,566	7,951	3,746	4,205	10,692	5,122	5,570	7,998	3,828	4,170
茨城県	184	96	88	105	66	39	185	98	87	114	80	34

「自分を必要としている場所、情熱を持って伸びてきているところに位置する方がおもしろい」～救急医からのメッセージ

三井記念病院、聖路加国際病院救急部を経て、ハーバード大学公衆衛生大学院を修了後、今年7月から水戸協同病院の救急科科長に就任され、意欲的に地域医療に取り組まれている阿部智一先生にお話をいただきました。

●始まりは、徳田先生との出会いから。

…茨城で勤務されることになったいきさつは？

以前、聖路加国際病院の救命救急センターに勤務していたのですが、入職式の時に隣の席だったのが、現在、水戸協同病院で総合診療科教授をされている徳田安春先生だったのです。その時に、一緒に研究をしませんかという話になり、かれこれ5年ほど共同研究をさせていただきました。

徳田先生が聖路加を辞められてこの病院の教授になり、その半年後ぐらいに私も次のステップのために、アメリカのハーバード大学の大学院に進みました。大学院を卒業するころ、次はどうか、アメリカに残ろうか、日本に帰ろうか考えていた時に、徳田先生から一行のメールが届き、「茨城に来て救急をやらない？」と、誘われました。

すごく迷ったんですよ、なぜなら、水戸を知らないし、茨城県に一步も足を踏み入れたこともなかったから(笑)。ずっと東京で働いていたので、地元の愛媛県も医者としては帰り方が分からないし、一人だけでもボスがよく分かっているところの方がいいかなと思った。茨城県の医療対策課では、Twitterで医師を求めているのをよく知っていましたし、震災もあって医師が不足しているのではないかと思いました。必要とされない場所に行くよりも、必要とされる場所の方が自分のためだし人のためにもなるかなと、茨城に来ることにしました。

…公衆衛生学を、地域医療にどのように生かされますか？

病院全体の救急の質とか改善などには、ハーバードで学んだ知識がすごく役立ちます。本当は地域に役立つはずなのですが、地域で役立つためには全体で動かしていかなければならないので、ほかの病院の救急ともよく話し合う必要があります。また、行政と救急の連携なども得意な範囲です。そういう会合などを設けていただければ、地域医療がもっと良くなっていくかなと思います。

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター
茨城県厚生連総合病院水戸協同病院
救急科科长 医師 公衆衛生修士

阿部 智一



●若い研修医を育てるんだというスピリットやパッションが素晴らしい

…茨城の地域医療のどのようなところに魅力を感じますか？

みんな、やる気じゃないですか。行政もそうだし、この病院自体も地域医療を救うんだって取り組んでいる。我々が断ったら、この先どうなるということで救急は絶対に断らない。そして、若い研修医を育てるんだというスピリットやパッションが素晴らしいです。アメリカの大学院や日本の先端病院にいましたから、正直言ってカルチャーショックもあることはありました。でも、情熱を持って伸びてきているところに位置する方が、今はおもしろいと思っています。

…水戸協同病院の救急診療について。

去年の救急車の受け入れが2700台、水戸市内で一番多かったのです。我々が断らなくなって、月に310台前後を受け入れていますから、今年は4000台近くなるでしょう。ずっと住民が希望してきた人数を、網羅できるようになりました。

4000台というのは県立中央病院と同じレベルです。県立中央病院の救命センターは素晴らしい設備ですよ。でもここは小さな救急室で診察室が2つしかなく、患者さんがごつた返している感じ。どうして診られるかという、私が一人

で駆け回っているわけではないんです。当院は総合診療科と整形外科、この二つが優秀な多数のスタッフを持っていて、その他の科も専門家が一人ずつ必ずいる。彼らが「全員で救急をやるんだ」と、救急から振り分けられた患者さんを絶対に断らずに診てくれる。そういう環境があるからです。

救急は所詮、入口なので、後側がしっかりしていない場所では絶対に成功しないのです。ここは入口がなかったので、入口をつくったということ。今の段階では後ろにおんぶにだっこなので、できるだけ救急として独立していきたいですね。

●茨城はLand of opportunity、若者にできることがたくさんある！

…研修医の教育についての特色はありますか？

私の基本方針としては、できるだけ都会の有名な研修病院と変わらない教育をしたいと思っています。今年の研修医は、なんと開院以来、初のフルマッチです！研修医を集めるために、我々の研修はどういうものかということ、全国にアピールし続けたので嬉しいことです。

教えるにあたっては、世界の主流、日本の主流をふまえて、地方の我々にできていること、できないことを必ず比較しています。できなかつたら、できるためにはどうしたらいいのか、地方からいつも考えて欲しい。もしかしたら世界の標準や日本の標準が必ずしもいいとは限らないし、水戸協同病院の方が世界最先端のことをしているかもしれない。その場合は世界にここから発信した方がいいし、いろいろな角度から教えるようにしています。

先週まで8日間ほど、アメリカの救急学会に行ってきました。私自身も若いですから、定期的に世界の救急はどうなっ

ているのかを学んで成長して、若者にさらにフィードバックしています。茨城の救急の人材はまだ少ないですから、重要なことだと思います。

…先生がお考えになる良い研修病院とは？

研修医が、楽しそうにしている所じゃないかな。これは必ず聞くのですが、「救急をやっている楽しいか」ということと「研修をしていて楽しいか」ということ。特に救急は華々しい仕事だけじゃなくて、人の嫌がる仕事もやらなければならないので、しんどい時もあると思うのですが、そのことが楽しいとか、好きとかいう気持ちがないと戦っていけない。そう思える施設が、良い施設だと思います。

…医学生・研修医の皆さんにメッセージを。

茨城へ来る時の私のテーマはLand of opportunityと言っているのですが、恵まれないこともいっぱいあるんですよ。医者も少ないし、施設だって物だって足りないものはたくさんある。ただ機会は、たとえばいろんな患者さんを診る機会だとか、いろんな手技をする機会が若者に与えられる。そういうことができますから、若者が勢いを持ってやっていけるというのが水戸、茨城の特徴だと思います。若者の方にできることがたくさんあるので、そういう勢いを出せる良い土地だということはメッセージとして伝えたいです。

…今後の目標については？

救急外来もこの12月から改築するのですが、ICUも設計が大詰めに入ってしまっていて、完成後にはさらに重症の患者さんも取れるように、ICUも安定させたいというのが近々の目標です。さらに、もう少し教育と研究にも時間を取りたいですね。MITO Criteria、水戸の法則のようなものを創り、水戸が世界の診療を変えられるような研究もしたいと思っています。

研修医Relay Essay リレーエッセイ

株式会社日立製作所日立総合病院
初期臨床研修医 国府田尚矢



気づけば、研修医となって8か月が過ぎ、やっと業務の流れがつかめてきたように思います。今まで良く知っているつもりであった疾患も、実際の患者さんを目の前にすると、手も足も出ず、自分の知識の薄さを痛感する日々です。

現在、私は日立総合病院の救急総合診療科を1年目研修医3人で研修しています。主に病棟業務がメインであった科と異なり、診断のついていない患者さんを外来診察し、可能な範囲で診断、専門医への治療の引継ぎを行っています。目の前の患者さんからいかに情報を引き出し、身体所見をとり、鑑別診断をしぼれるかということを目標に日々奮闘しています。私にとって、このような外来研修がで

るプログラムはとても刺激的で、毎日充実した日々を送っています。

研修生活は大学生活に比べれば大変なことも多いですが、日々が刺激的で、充実した生活です。医学生の皆様は、日々忙しい大学生活を送られていることと思いますが、研修医になった自分の姿を想像し、残りの大学生活を過ごしてみてください。きっと、モチベーションがあがると思います。

茨城県臨床研修病院合同説明会開催決定

茨城県の臨床研修病院が一堂に会し、合同説明会を開催します。

東京会場 (医学生・研修医・勤務医向け)	つくば会場 (医学生向け)
平成24年3月11日(日)	平成24年3月25日(日)
秋葉原UDX6Fカンファレンス	つくば国際会議場1F多目的ホール
内容: 病院別ブースによる個別相談	内容: 臨床研修病院プレゼンテーション 病院別ブースによる個別相談



詳細はホームページなどでご確認ください。

病院紹介コーナー



JAとりで総合医療センター

JAとりで総合医療センターは本年4月に取手協同病院から改称されました。JAが冠されているように茨城県農業協同組合厚生連の傘下であり、利根川を挟んで千葉県に接する県南部の公的基幹病院です。414床の入院病床に加え、県下では第二位（4500台/年）の救急車受け入れ実績があり、プライマリーケアの習得にはまさにうってつけの研修施設です。当院採用の他に東京医科歯科大学や筑波大学からの初期研修医も受け入れており、常時15名前後のレジデントが研修に励んでいます。「取手の卒業生は使える！」と言われるよう、確実に臨床手技を習得するだけでなく、学会発表や論文執筆も視野に入れた幅広いトレーニングが行えるよう配慮してい



ます。Leading physicianを目指すなら、ぜひ取手の研修を体験してみてください。見学も随時受け付けています。希望者は私 (yoshimaeda43@yahoo.co.jp) あてご連絡下さい。（臨床研修責任者 前田益孝）

茨城県からのお知らせ

新ホームページ

i-doctor style がオープンしました。

茨城県では、女性医師をはじめとしたすべての医師の働きやすい環境づくりをめざして、新たなホームページ「i-doctor Style」を開設しました。

総合的な相談窓口や、県内の保育施設に関する情報をはじめ、病院における子育て支援の取り組み状況や、女性医師へのインタビュー記事などを掲載しています。

ぜひご覧ください。皆様からのご意見も募集しています。



平成24年度自治医科大学入学試験案内

自治医科大学医学部第一次試験を行います。

将来、本県の地域医療に貢献する情熱を持った方の応募をお待ちしています。

【出願期間】 平成24年1月4日（水）～18日（水）
※消印有効期限 1月17日（火）

【出願書類の提出先】 茨城県保健福祉部医療対策課（〒310-8555 水戸市笠原町978-6）

【学力試験】 平成24年1月23日（月）9時～

【面接試験】 平成24年1月24日（火）10時10分～

【一次合格発表】 平成24年1月27日（金）13時

【試験会場】 茨城県開発公社（水戸市笠原町）

※ 二次試験は2月2日（木）に自治医科大学で実施します。合格発表2月10日（金）

茨城県医師確保支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6（保健福祉部医療対策課内）TEL:029(301)3191

http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp